

特集 関ヶ原の戦い前哨戦 新加納の戦い

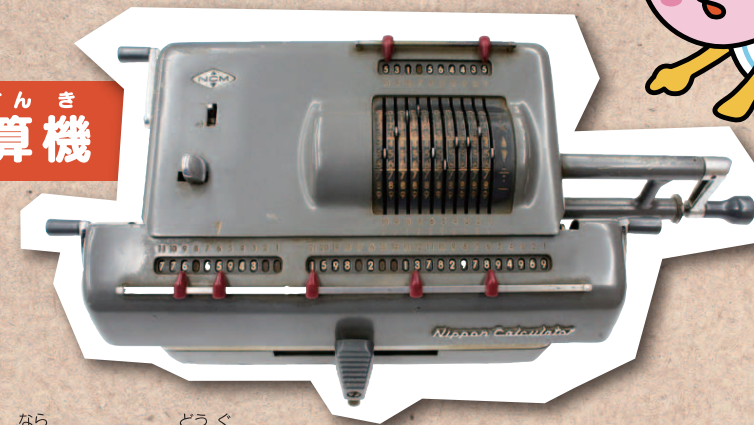
特集	関ヶ原の戦い前哨戦「新加納の戦い」	02
調査速報	旧羽島郡川島村の小字地図の作成	06
	さらに広がる古代の集落	07
事業報告	新市史 執筆体制が整い7年度刊行	08
	ヒストリー・アートウィンドウ	09
	かかみがはらえぎめ project	10
	令和4年度企画展	12
各務原を知る	キャンプ岐阜と幻の俳人 鈴木しづ子	14
TOPICS	古墳から出土した遺物を記録せよ！	16

もっと知りたい！ いま・むかし

Q これは何に使う道具だろう。
みんな、わかるかな？



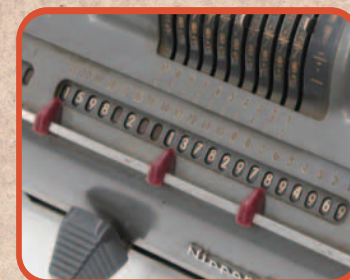
き かいしきけいさん き 機械式計算機



たくさん数字が並んだこの道具。
実は、**計算機**なんです。目盛りを動かしたり、横のハンドルを回したりして、中の歯車がかみ合うことで計算します。
ハンドルを回すときの、カチャカチャという歯車の音が特徴です。
家庭用ではなく、会社や役場など、たくさんの計算が必要な場所で活躍しましたが、1970年代に電卓が普及すると、次第に使われなくなりました。



みぎうえ め もり そうさ けいさん
右上の目盛とハンドルの操作で計算。目盛やハンドルを回す方向で、加減乗除すべてに対応します。



けつ か みぎした すうじ ひょうじ
計算結果は、右下に数字で表示されます。



かわしまつくらまち き そ がわぶん か しりょうかん き かいしきけいさん き
川島松倉町にある「**木曾川文化史料館**」では、「機械式計算機」の
ような、ちょっと昔の道具をたくさん見ることができます。
かかみがはら し かわしまつくらまち かわしまいかん かい
各務原市川島松倉町 1951-4 川島会館 4 階

米野ではなく新加納！

関ヶ原の戦い前哨戦「新加納の戦い」

関ヶ原の戦いの約1カ月前、慶長5年（一六〇〇）8月22日、岐阜城を目指す東軍池田照政らの軍勢が木曽川を渡り、西軍織田秀信配下の軍勢を打ち破りました。これまでこの戦いは、「米野の戦い」と呼ばれてきました。しかし、直接この地で戦った武将たちの記録を調査すると、「新加納の戦い」と呼んでいたことが明らかになりました。

（注 池田「輝政」は慶長12年以降の名乗りであるため、本論では「照政」を用いる。

慶長5年7月、徳川家康および東海道地域の大名は、上杉景勝を討つため会津に向かっていました。しかし、石田三成が京都で挙兵した情報を受け、福島正則・池田照政らの軍勢を尾張国に急行させ、家康自身は江戸に戻りました。

8月19日、福島・池田らは、清須城で家康の使者から岐阜城攻撃の命令を伝えられます。岐阜城を守る西軍は、織田秀信軍です。東軍は軍議の結果、上流の河田（現各務原市川島河田町）を池田照政、下流の起（現愛知県一宮市）を福島正則が渡河す

ることになりました（図1）。

8月22日、東軍池田照政率いる軍勢は、一柳直盛隊を先鋒に、木曽川を渡ります（資料1）。西軍では織田秀信配下の飯沼長資が防戦しましたが、池田長吉に打ち取られました。西軍はさらに新加納砦で防戦しますが、池田隊がこれを打ち破り、西軍は岐阜城に逃げ込みました。

翌8月23日、東軍は岐阜城を攻め落としました。この勝利を受け、江戸に留まっていた家康は出陣し、9月13日には美濃国に到達。15日の関ヶ原での決戦に臨みます。

岐阜人衆しんか野二相支候

西軍の岐阜城の軍勢は新加納で防衛した

（徳川家康）



図1 慶長5年8月22日、尾張国・美濃国における関ヶ原の戦い前哨戦の布陣

合戦の登場人物（関ヶ原の戦い当時）

西軍

織田秀信（一五八〇～一六〇五）

織田信長の孫。岐阜城主。新加納の戦いでは閻魔堂（現岐阜市上川手）まで出陣するも交戦せず撤退、翌日岐阜城を攻められ降伏。照政らの取り成しで助命され、剃髪して高野山に入った。

飯沼長資（？～一六〇〇）

通称小勘平。父とともに織田秀信に仕える。新加納の戦いでは、一柳家臣・大塚権大夫を討ち取ったが、池田長吉に討たれた。父長実も翌日の岐阜城の戦いで戦死。岐阜町平島の「飯沼勘平長資の墓」は岐阜町指定史跡となっている。

百々綱家（一五四八？～一六〇九？）

織田秀信の老臣。秀信に東軍に味方するよう勧めたが、拒否された。新加納砦を守るも敗北、岐阜城に籠る西軍が降伏する際に交渉役を務めた。戦後、山内一豊に仕え、高知城普請などで活躍した。

東軍

池田照政（一五六四～一六二三）

三河吉田城主。徳川家康の娘婿。東軍の東海道軍の先鋒部隊として6500人の軍勢を率い、福島正則とともに岐阜城攻めで活躍した。この功績から、戦後播磨国52万石、姫路城主となった。

一柳直盛（一五六四～一六三六）

尾張黒田城主。地元の領主であることから、木曽川渡河の道案内を期待された。1000人の軍勢を率い、木曽川渡河の一番乗りを果たしたが、西軍の抵抗にあって被害が大きかった。戦後、伊勢神戸5万石に加増された。

池田長吉（一五七〇～一六一四）

池田照政の弟。新加納の戦いでは、自ら飯沼長資を討ち取る活躍。合戦の5日後、家康から「殊自身御高名」と長吉個人の戦功を称える書状を贈られた。戦後、因幡国6万石、鳥取城主となった。

所蔵者の意向により画像を非表示にしています

資料1 関ヶ原合戦絵巻（小野市立好古館所蔵）

一柳直盛の、木曽川越の戦いでの活躍を描く。小野藩三代藩主一柳末礼（1649～1712）の時代に作成されたと伝わる。

発掘調査で発見された巨大な堀

平成22年度より、新加納で操業していた工場の移転と区画整理に先行して発掘調査が行われました(写真1)。

発掘調査では、現在の少林寺の南で幅5m、深さ2.5mを超える大規模な溝が発見されました(写真2)。

この溝は、明治時代に描かれた絵図などとも一致することから、旗本坪内氏陣屋の周囲に設けられた堀と判明しました。そして、その後の発掘調査成果と合わせると、坪内氏陣屋の堀と屋敷地のあった位置がほぼ確定できたのです(図1)。

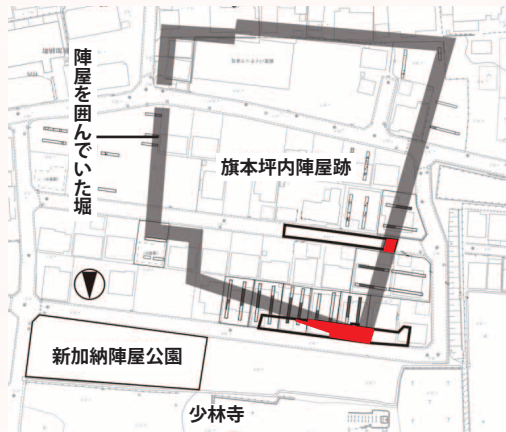


図1 坪内陣屋跡堀跡推定位置図



写真1 坪内陣屋跡発掘調査(北より)(平成23年)

しかしこの堀は、新たな陣屋の施設としては過剰な規模であること、堀からの出土遺物は、古代・中世の土器・陶器から近代の陶磁器まで幅広いことなど、腑に落ちない点もありました。これらは、戦国時代以前から存在していた溝を一部利用しながら陣屋の堀としたためと推測されます。

各務原台地が西へ張り出した新加納の地には主要街道であった中山道が通り、陣屋からは南と北、西に開けた平野が見渡せます。古くから木曾川中流域を拠点とし、江戸時代には右岸沖積地に知行地を与えられた旗本坪内氏が、かつて尾張から攻め上る軍勢を退ける砦が築かれた新加納の地に陣屋を置いたことは、自然な選択であったと考えられます。



写真3 新加納陣屋公園

(戸崎憲一)

新加納の歴史を未来へ

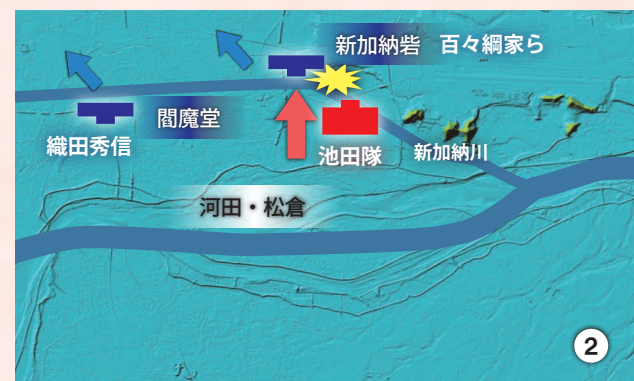
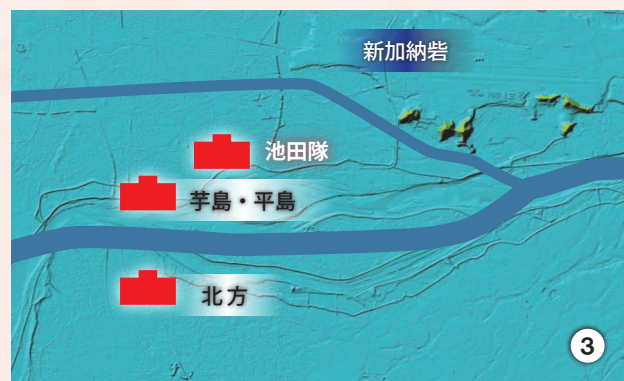
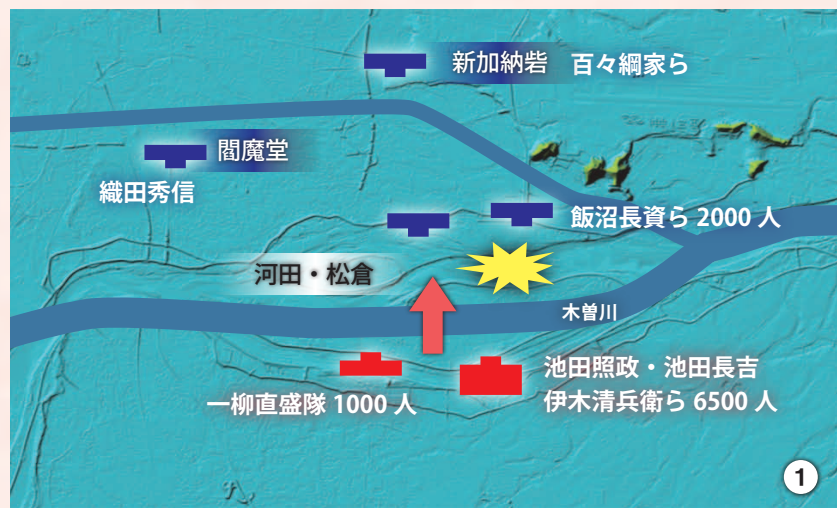
目まぐるしく変貌を遂げた新加納には、もはや戦国時代の合戦の跡も旗本坪内氏陣屋の面影も残されていません。しかし、新加納の歴史を知る地域の人々の強い願いを受け、住宅地の一面に「新加納陣屋公園」が令和2年に開園しました(写真3)。陣屋を模した園内では、訪れる人々に豊かな歴史を伝えています。

その後の新加納 旗本坪内氏、陣屋を構える

関ヶ原の戦いにおいて、東軍と西軍が覇を競った新加納の地では、江戸時代、木曾川右岸中流域を知行地とした旗本坪内氏が支配の拠点として陣屋を構えました。明治時代に陣屋がなくなった後は、太平洋戦争後に大規模な工場が進出、平成27年に工場が移転したのち、新加納は新たな住宅地へと変貌を遂げました。

新加納の戦いの経過

- ① 一柳直盛・池田照政の軍勢が木曾川を渡河し、川岸で待ち構えていた西軍を打ち破る。
- ② 照政の軍勢が新加納川を越え、新加納砦を攻略。岐阜城下まで追撃。織田秀信は閻魔堂から退却し、岐阜城に籠る。
- ③ 22日夜、東軍は芋島・平島・北方などに布陣し夜を明かす。翌日、岐阜城を攻撃。



当事者たちの新加納

この渡河戦を池田照政が率いたのは、照政が前岐阜城主(一五八五〜一五九〇)であり、旧領主の土地勘を買われたものと思われます。

合戦の様子は、江戸時代に池田家が藩主を務めた、岡山藩・鳥取藩の藩士の家譜(家の系譜を記した文書)に記されています。池田家臣たちは、この合戦を「新加納合戦」と呼び、新加納川を越えて戦ったこと、新加納村に砦が築かれていたこと、戦いで多くの敵の首を取ったことなどを記しています。

池田家臣たちは元々美濃に領地を持っていた者も多く、勝手知ったる土地「新加納」で戦いました。9月15日の関ヶ原本戦での活躍の機会が少なかった池田家臣たちは、自らの武功を示すため、「新加納」でいくつ首を取ったのかをこぞって家譜に書き記したのです。

木曾川での関ヶ原前哨戦は、①河田で「木曾川」を渡った一柳・池田軍が西軍を打ち破った戦い、②「新加納川」を渡った池田軍が、新加納砦で

防戦する西軍を打ち破り、岐阜城へ追い込んだ戦い、の二つの戦いに分けられます。「新加納川」は、木曾川の旧流路で、現在の三井川辺りを流れていたと思われます。

ではなぜ、この関ヶ原の戦いの前哨戦は「米野の戦い」と呼ばれてきたのでしょうか。同時代の記録には「米野」が合戦地であったという記述は全くありません。「米野の戦い」と呼ばれるのは、戦いから100年以上後の、正徳3年(一七一三)に軍学者・宮川忍斎によって記された『関原軍記大成』に「濃州米野合戦」と立項されたためと思われます。『関原軍記大成』は軍記物語であり、創作も多数盛り込まれていますが、その後さまざまな文献に引用され、後世の関ヶ原の戦いの研究に大きな影響を与えています。忍斎が「米野合戦」と表現したため、それが広まったものと思われます。

この合戦については、当事者である池田家臣たちの呼び方を採用して、「新加納の戦い」と呼ぶのが適当ではないかと考えるのです。

(長谷健生)

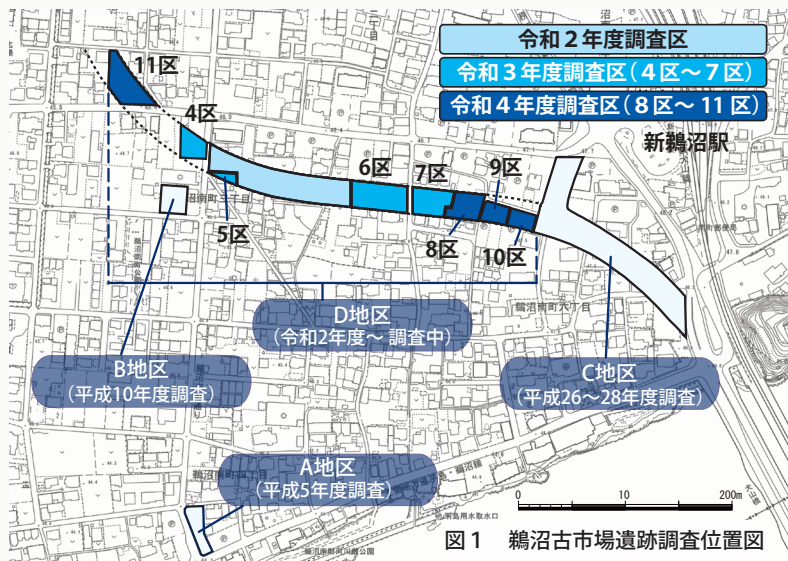


図1 鵜沼古市場遺跡調査位置図

奈良・平安時代の人々と暮らし

人々の住まいであった竪穴建物内にはカマドが残っていました。カマドとは、日常的な煮炊きに使用された簡易な炊事設備をいいます。直立した状態で等間隔に配置された河原石はカマドの構築材（骨組み）で、周りを土で盛り固め、外部には煙道を備え付けていました（写真1）。カマドが構造物として原形を留めた状態で見つかることは稀な事例です。

出土した須恵器は各務原市の山間部で確認されている古窯跡（生産工房）で作られたものです（写真2）。この須恵器は県内を中心に出土しており、古墳・奈良・平安時代に、美濃地域では一般的に使われていたようです。



写真1 カマド



写真2 出土した須恵器



写真3 かわらけ出土遺構



写真4 かわらけ

(三浦薫平)

さらに広がる古代の集落

鵜沼古市場遺跡D地区の発掘調査は、都市計画道路「犬山東町線バイパス」第二期建設工事に伴う緊急発掘調査で、令和2年度から始まり、今年度で3年目を迎えました。調査面積は、3年間で約1万㎡に及びます。今年度はD地区の8～11区を調査し、奈良・平安時代の集落跡がさらに広がることになりました（図1）。

鵜沼古市場遺跡D地区発掘調査速報 第三弾

かわらけ出土遺構

集落とは別に、鎌倉時代の特殊な遺構を確認しました（写真3）。注目すべき点は、遺構全面に広がる漆喰（しっくい）や焼けた土、円形に配置された河原石、そして大量に出土したかわらけです（写真4）。

かわらけは、一度限りの使用のため

に作られた素焼きの皿形土器で、宴の場など特別な機会に使われたとされます。現代でも「かわらけ投げ」という文化が見られますが、それと似たことが行われていたのでしょうか。あるいは火を使う作業場、土器の廃棄場など、さまざまな可能性が考えられますが、いずれにしても判断が難しいところです。時が経つにつれ、目的・用途が移り変わっていったことも考えられます。

また、この遺跡は古代各務郡の玄関口のひとつであり、「流通センター」のような機能を果たしていた集落であったと推察します。当時の立地環境、社会背景、周辺の遺跡との関連性など、さまざまな視点を検討しつつ、今後の発掘調査・報告書作成へ向けた作業を進めていきます。

今後の展望

鵜沼古市場遺跡は古代の官道である東山道や木曾川の川湊を控えた立地です。こうした陸路・水運を主とした物流・交通の要衝として、人々の往来が絶えない地であったと考えられます。古代各務郡で生産された須恵器の移出など、地域を越えた交渉・交易がここを拠点に日々行われていたのかもしれませんが。

旧羽島郡川島村の小字地図の作成

小字は土地の小区画、集落のまとまりにつけられた名称です。大字は、江戸時代の村を継承した範囲・地名で、いくつかの小字からなります。

各務原市域旧4町（那加、蘇原、鵜沼、稲羽）の「小字地名図」は、『各務原市の地名』（平成3年）に掲載しています。しかし、平成16年に合併した旧川島町の「小字地名図」は作成されていませんでしたので、今回、初めて作成を試みました（図1）。

驚き！木曾川の流勢

作成作業の始めは、現在手に入る最も古く正確な「明治24年測図の地図（注参照）」に、作成時期が明治後期～昭和初期と考えられる「土地台帳附属地図」・羽島郡川島村大字ごとの「字地図」（資料1）のデータを重ねる作業でした。この作業で、20～30年の時代差を考慮しても、小字の境界や位置に明らかな「ズレ」があることが分かりました。このズレは、なぜ生じたのでしょうか。

旧川島村地域は、数派に分かれる

木曾川の「川中島」であり、大正12年～昭和20年代に行われた、流れを集中・固定する工事が完成するまでは、出水の都度、流路が大きく変わる地域でした。人々が生活する土地の境界や場所さえも短期間に変えてしまうほどの流勢があったからと考えられます。

特徴的な字

- ・大字河田島（現河田町）の間に大字松原島（現松原町）があります。
- ・大字松原島渡分区に「〇〇屋敷」の小字が集中。有力な一族の屋敷地であった可能性があります。
- ・現在では新加納にある少林寺が、大字小網島（現小網町）の字「少林寺」にあったとされています。
- ・大字松倉や大字笠田などに、小字の境界が近代以前の堤防である地域があります（資料1・太線）。

小字名や形から、川とともに生きた川島の人々の生活が垣間見えそうです。（杉山一博）

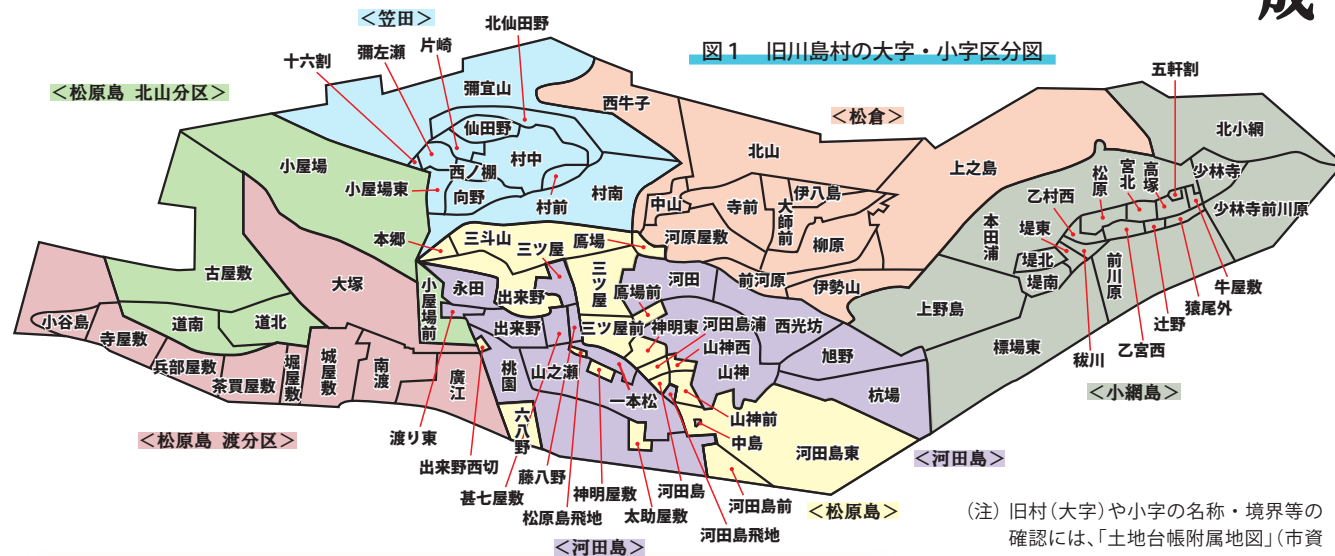
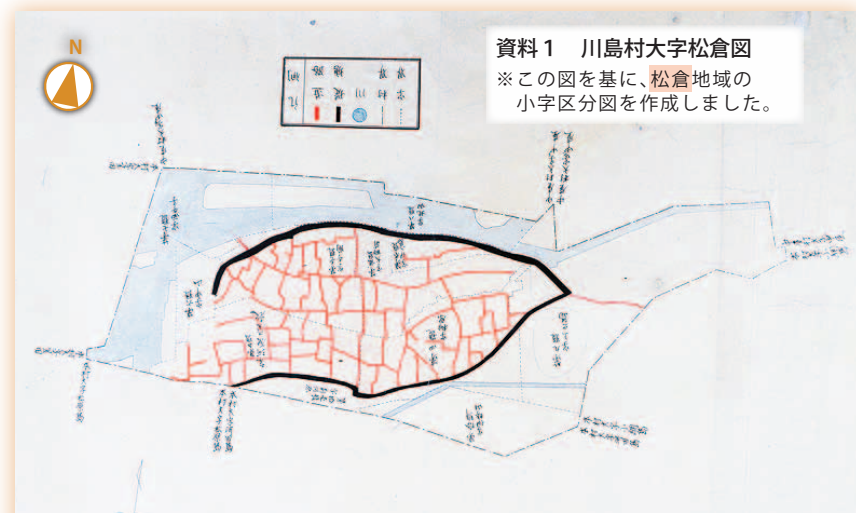


図1 旧川島村の大字・小字区分図

（注）旧村（大字）や小字の名称・境界等の確認には、「土地台帳附属地図」（市資産税課旧蔵）の「羽島郡川島村大字ごとの字地図」綴（旧川島町所蔵、平成16年の合併時に市資産税課に移管）を使用。この情報を「明治24年測図同26年製版同42年陸軍建物及用地修正同43年11月改訂版」地図（大日本帝国陸軍陸地測量部）に落とした。大字名については、『川島町史 通史編』の「川島町沿革表」の情報を使用した。

なお、「羽島郡川島村大字ごとの字地図」の作成時期は、明治44年～昭和初期と思われるが、未確定。

資料1 川島村大字松倉図
※この図を基に、松倉地域の
小字区分図を作成しました。

■**ショーウィンドウのような展示**
文化財課では、1階を歴史系、2階を芸術系の展示スペースとして位置づけ、それぞれ「ヒストリーウィンドウ」（写真1）、「アートウィンドウ」（写真2）という愛称をつけ、

耐震性の問題から、建て替えによる耐震化が進められている各務原市役所本庁舎。高層棟と低層棟からなる新庁舎のうち、高層棟が令和3年8月に完成し、9月から供用開始されています（低層棟は令和5年完成）。旧庁舎になかった高層棟の設備のひとつが、1・2階東側通路に設けられた壁面展示スペースです。令和4年度からの所掌事務の見直しに伴い、文化財課でこの展示スペースを運用することになりました。

ロゴマークと展示内容



2F アートウィンドウ …芸術系の展示
市所蔵絵画、市ゆかりの美術品など



1F ヒストリーウィンドウ …歴史系の展示
文化財、遺跡からの出土品、歴史・民俗資料など

写真2 アートウィンドウでの展示「宇城翔子-季節のうつろひ-」（令和5年2月～3月）。1階は養蚕業の歴史と道具、2階は絵絹を使用した日本画作品を展示した。



新庁舎で歴史と芸術にふれる 1F ヒストリー 2F アート ウィンドウ

写真1 ヒストリーウィンドウでの展示「村国座の地芝居」（令和4年10月～12月）。村国神社で保存されている古い歌舞伎衣装を展示した。



各務原市史編さん事業 執筆体制が整い7年度刊行

歴史民俗資料館では現在、『各務原市史』の追加編さん事業を進めています。令和3年度に市史編さん委員会を設立し、「市史編さんの基本方針」に基づき、4年度までに執筆者や執筆体制を整えました。いよいよ5年度からは執筆作業に入り、7年度に刊行予定です。

また、新市史刊行に先立ち、各務原市の地理的な成り立ちから今日までの歴史を平易に記述した、市史の



写真1 KAKAMIGAHARA STANDで開催した巡回展（11/11～11/23）

『普及版』を5年度に刊行します。現在、執筆された原稿の取りまとめ、編集作業の真つ最中です。B5判・約250ページ、100テーマを見開きで1項目ずつ紹介します。この1冊で市の歴史が全て分かる決定版。ご期待ください。

古い写真の巡回展を開催

関連事業として古い写真を募集していますが、その一部を紹介する巡回展「写真で振り返るかみがはら」（写真1）。第2回となる今回は、古い写真と現在の写真の比較が10組20点、またテーマごとに「上空から見た各務原」6点、「昭和・平成の子どもたち」9点を展示しました。

旧岐阜大学は子どもたちの遊び場

「昭和・平成の子どもたち」で、昭和20年代後半、旧岐阜大学附属農場で遊ぶ少女の写真を紹介しました（写真3）。大学の敷地内での子ども写真はなくさん集まっております、その中の一枚です。昭和20年代から50年代、大学の構内・敷地には、牛や羊を飼っていた農場や美しく整備された庭園（九二八ガーデン）があり、近くに住む子どもたちには格好の遊び場になっていたようです。



写真3 昭和20年代後半の旧岐阜大学農学部附属農場



写真2 昭和40年代半ばの旧国道21号（那加メインロード）

ていました。歩道が整備されていたため、歩行者や自転車車道が縦横に移動し危険でしたが、商店街の活気を窺い知ることができました。

は、学生、教職員およびその家族はもちろん、近在の人々が弁当持参で来場し、大変にぎやかだったことが『岐阜大学農学部創立70周年記念誌』に記されています。（稲川和宏）



令和3年度は、本来の絵絹の用途である絹絵を取り上げ、企画展「-寿ぐ-」を開催しました。市役所新庁舎内に設置された展示スペース「アートウィンドウ」に、名古屋芸術大学日本画コースの学生や関係する作家の作品を展示しました(写真4)。同大学の長谷川喜久教授から、「普段和紙に描いている学生が、モチーフや描き方を工夫し絵絹に挑む様子」や、「展覧会後に自分たちで絵絹作品を制作し始めたこと」などを伺い、市内で生産された絵絹を用いた産官学連携事業としても、今後につながる手応えを感じました。

令和3年度 日本画と絵絹

～歴史民俗資料館にアート部門誕生～ かかみがはらえぎぬ project

「アートブリッジ事業」の一環として、アートと産業をかけあわせた「かかみがはらえぎぬ project」は3年の区切りを迎えました。



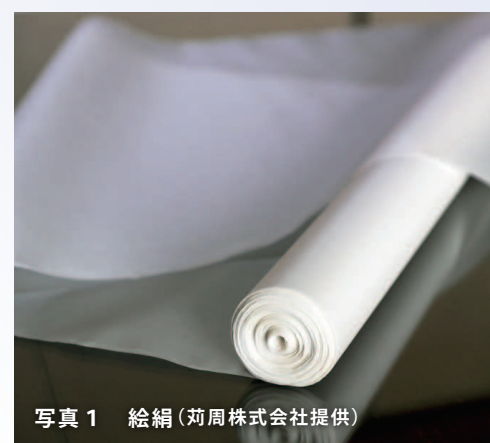
かかみがはら
アートブリッジ

「アートでうごかす・アートでつながる」をコンセプトとし、地域資源を活かすことで、「ヒト・コト・モノ」と繋げ、新たな価値を創出する取り組みです。

令和4年度 企画展「kinusora」

3年に及ぶプロジェクトの最終年である令和4年度は、会場を航空や宇宙の専門的な博物館である「岐阜県航空宇宙博物館(空宙博)」の一角で「えぎぬ project 企画展「kinusora」」を開催しました。前述の学生や関係する作家など総勢18人が「そら」や「とぶ」をテーマに思い思いに作品を仕上げ、掛け軸に仕立てて展示しました(写真5)。

会期中に行ったワークショップ「マイファースト掛け軸作り」(写真6)では、参加者が展示作品と同じ仕様でのミニ掛け軸を製作し、絵絹に描く難しさや面白さを体験する機会となりました。また、空宙博内のショップやカフェでは、企画展とのコラボ商品の販売も行われました。



各務原市と絵絹

絵絹(写真1)は、同じ太さの生糸を平織りにした絹織物で、主に日本画の基底材(絵が描かれる素材のこと)として使用されています。

各務原市域に機械織りの技術が伝わったのは、江戸時代からといわれており、中でも絵絹は木曾川沿いの稲羽地区で製造されてきました。大正時代には、織り機が動力化され製造量も増加しましたが、その後、戦争や時代の流れに抗えず、衰退の一途を辿っています。絵絹は、ほとんどが各務原市で製造されていますが、わずかな数人の職人が伝統や技術を守り、織り続けている状況です。

令和2年度 染織と絵絹

令和2年度より、市ではアートブリッジ事業(アート×産業)として「絵絹」に焦点を当て、文化に即した「かかみがはらえぎぬ project」が始まりました。

中央図書館の展示室で、美濃友禅で知られる染織家による企画展「河村尚江染織展「流転」」(写真2)を開催、絵絹独特の張りのある質感に、初めて染色することを試みました。さらに、絵絹を染色して製作したタペストリーは、「ふるさと納税返礼品」に登録され、県外に向けて、市



と絵絹をPRしています。

また、絵絹を周知するため、市民公園を活用し、アートピクニックを企画。公園に集う人々に向けて、染めの実演(写真3)と、染色と絹絵制作のワークショップを開催しました。絹絵の講師には、名古屋芸術大学日本画コースの大学院生を迎え、参加者は、絹絵の技法を習いながら「マイファーストえぎぬ作品」を製作しました。野外でのワークショップは盛況で、参加者は、慎重に絵絹に色を載せていました。



「えぎぬ project」から 「かかみがはら@えぎぬ」へ

絵絹の周知と新しい価値の創出に向けて取り組んだプロジェクトは、3年を経て次の段階へと進みます。令和5年度からは、絵絹について、地域の歴史や文化的な背景にも触れ、未来に継承していく「文化資源」としての可能性を広げる取り組み「かかみがはら@えぎぬ」を始めます。「@えぎぬ」の「@」に日本画の基底材である絵絹の「文化的な素地」場」という意味を込め、絵絹を介して多くの人と地域がつながるような活動を目指していきたいと思っています。

(廣江貴子)



かかみがはら百科プラス No.4
(A4・8ページ)
歴史民俗資料館で無料配布中

「御膳粉」

～徳川将軍も食した各務原の米～

御膳粉とは、江戸時代、将軍をはじめとする大奥の人々が食べるために献上された米のことです。御膳粉は、全国でも美濃国の幕府直轄領のみに課せられており、各務原市域の幕領でも作られていました。本企画展の調査では「なぜ御膳粉は美濃米なのか」は明らかにできませんでしたが、江戸時代、美濃米が高い評価を受けていたことが分かってきました。

美濃国の米は美味い

江戸時代に作成された米の豊作の番付表では、美濃国の幕領の米(御蔵美濃上米)は、しばしば「行司」の位置に記されています(資料1)。番付の「行司」は、別格上位のものを記すことが多く、美濃米は安定した生産ができたと思われる。

また、国学者・平田篤胤も、日常の楽しみとして、「美濃米を飯にたいて、鰻茶漬、初堅魚に、剣菱の酒を呑み、練羊羹を給ながら、山吹の茶を呑んで、国分の煙草をくゆらして居らる、」(「伊吹於呂志」)と記しています。当時「美濃米」は上等な米という認識だったことが分かります。ただし、御膳粉になっているから評価が高いのか、評価が高いから御膳粉となったのかは、分かりません。

御膳粉の品種はもつない?

御膳粉の品種は固定ではなく、「ちこ弥六」「名古屋ちこ」「稲草福田」といった品種が用いられました。これらはいずれも、勘定所が定めた粉の基準を満たした良質な品種でした。来場者から、「御膳粉の品種の種は、現存するのか」という質問をよ



かかみがはら百科プラス No.3
(A4・16ページ)
歴史民俗資料館で無料配布中

「養虫山人 各務原を行く」

～放浪の画人が、この地を訪れたのは～

江戸末期から明治にかけて全国を放浪し、風景や人々の生活、古器物、民具など、多くの絵を描いたことで知られる養虫山人。近年の調査で、彼が晩年に各務原を訪れ、多くの作品を残していたことが明らかになりました。

そこで、本企画展では、市内に残されている彼の作品を展示するとともに、彼がなぜ各務原を訪れたのかを探求していきました。

養虫山人から見た各務原の魅力

養虫山人は、各務原で15枚の絵日記を描いています。約半数の8枚が古器物(土器や石器など)のスケッチです。これは、他の美濃地域と比べると大変多いことが分かります。彼は、熱心な古器物の収集家で、収集品を展示する「六十六庵」の建設を夢見ており、各務原から発掘された古器物もそこに展示しようと考えていました。実際、彼の収集品目録の中には、「蘇原村出土の勾玉四個」「各務野出土の高坏・長塚出土の土器十数個」という記述があります。県内でも古墳などの古代遺跡が多かった各務原は、養虫山人にとって魅力的な地域だったのでしょう。

養虫山人の作品の素晴らしさ

本企画展では、絵日記とともに、市内に残された養虫山人の作品(屏風絵・掛け軸など)13点を展示しました。企画展開催期間中には、市内外から1186人の来場者があり、養虫ワールドを楽しんでいただきました。

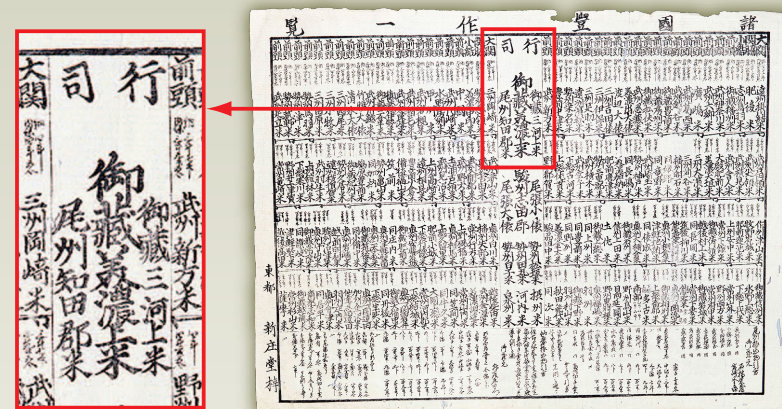
来場者からは、「養虫山人の絵は、ユニークで好きです。いい企画でし



関西大学非常勤講師の山口卓也氏をお招きし、特別講演会「養虫山人と考古学」を開催しました。

た」「ユーモラスな画風で、興味をもちました」「とても味わい深い絵ばかりで、目の保養をさせていただきました」「わかりやすい展示で、想像していたよりも見応えがありました。大らかなタッチの絵が好みます」「素晴らしい作品に感動しました」などの感想をいただきました。

(鷺見隆司)



資料1 「諸国豊作一覧見立番付」(東京都江戸東京博物館所蔵)

(長谷健生)

くいただきました。残念ながら、該当する品種は残っていません。しかし、現在の各務原市でも、当時と同じ水、同じ土地で米を生産していることには変わりありません。御膳粉の生産地であったという歴史が、市の新たな魅力となるよう、今後もPRしていきたいと思っています。

208cm×217cmの野口村絵図を初公開しました。
会期/令和4年10月8日～11月13日 会場/中央図書館3階 展示室A



企画展では、養虫山人のユーモラスな画風の作品が並びました。
会期/令和4年7月30日～8月28日 会場/中央図書館3階 展示室A・B





写真2 高等農林前を歩く進駐軍兵士



写真1 キャンプ岐阜正門



写真4 那加の歓楽街で働く女性たちに売られた装飾品やスカーフ



写真3 進駐軍相手の土産物店の営業時間掲示板と飾り板

ダンスホールでダンサーとなりました。さらに、同年末には、那加町南栄町に転居。このころ、しづ子はキャンプ岐阜内のキャバレーに勤めるようになり、恋人となった進駐軍兵士と一緒に暮らし始めます。

しかし、同年6月25日に勃発した朝鮮戦争は、しづ子にまでも暗い影を落とします。恋人の進駐軍兵士は、昭和26年（一九五二）6月に朝鮮に出兵。わずか2カ月後の同年8月に日本に戻った恋人は、重度の麻薬常習者となっており、母国アメリカ合衆国テキサス州に帰国。翌昭和27年（一九五二）1月、しづ子は帰国した恋人の訃報を受け取りました。しづ子の恋は、朝鮮戦争に散りました。この間もしづ子の作品は、『樹海』に掲載され続けます。昭和26年『樹海』7月号には、「夏みかん酸っぱしいまさら純潔など」「コスモスなどやさしく吹けば死ねないよ」など21句を発表。『樹海』7、8月号では、しづ子の特集が組まれ、『夏みかん』にて昭和26年度の「樹海賞」の1席を受賞します。昭和27年1月1日には、第二句集『指環』が刊行され、注目を集めました。



犬山橋にて右端がしづ子(29歳)

その後、9月15日付の投句稿を最後に、しづ子は消息を絶ちます。この年、しづ子33歳。その後の消息については、さまざまうわさが流れましたが、はっきりしたことは分かっていません。（鷺見隆司）

昭和27年3月30日、東京の神田俱樂部で行われた『指環』の出版記念会にしづ子が現れます。ついに注目の人物が登場ということで、その姿を一目見たいと人々が押し掛け、出版記念会は大盛況だったそうです。この会の席上、促されて謝辞を述べたしづ子は「それでは皆さん、ごきげんよう。そして、さようなら。」という言葉を残し、姿を消します。そして、これが師・巨湫にとっても、しづ子を見た最後となりました。

伝説となったしづ子

昭和25年（一九五〇）、しづ子は那加町吾妻町に転居、岐阜市柳ヶ瀬の（『各務原市民の戦時体験』より抜粋）

しづ子が住んでいたころの那加には、米軍が進駐し、那加基地はキャンプ岐阜と呼ばれていました（写真1・2）。那加の市街地には、米兵を迎え入れようとする横文字の看板が氾濫し（写真3）、米兵相手の女性たちが大量に流れ込んでいました（写真4）。「基地那加」は、「租界NAKA」とまでいわれ、基地周辺には歓楽街が出現し、喧騒の街と化していました。しづ子は、このころの町の様子を「那加町や冬は冬とて賑やかに」と詠んでいます。

なにか書いているの、ラブレター。」「ううん、そんなもんじゃない。練習してるの。」朝、散歩に行けばア。いい空気が吸えるから。」「吾妻橋まで行けば。」と話し合ったものです。それから、ちょこちょここと私が寝ているうちに散歩に出、その時にいい句ができていたのですね。「まみゆべし梅雨朝焼けの飛行場」「遊郭へ此の道つづく月の照り」などの句が『樹海』（昭和26年7月号）の巻頭を飾ったのを知ったのは、昭和61年2月のことでした。

キャンプ岐阜と幻の俳人 鈴木しづ子

幻の俳人と呼ばれ、今も俳壇の注目を集め続けている鈴木しづ子。昭和21年（1946）2月に出版された処女句集『春雷』は、戦後における新刊書の初のベストセラーとなり、同年11月には再版、昭和27年（1952）には三版も出て、「戦後初の三版句集」と言われました。次いで、昭和27年1月1日には、第二句集『指環』が出版され、これも全冊売り切れとなりました。

戦後の一時期、俳壇に旋風を巻き起こした鈴木しづ子は、戦後間もないころ、キャンプ岐阜があった那加の町で暮らしていました。キャンプ岐阜と幻の俳人・鈴木しづ子の足跡を辿ります。

句集『指環』より



(川村蘭太氏提供)

女流俳人「鈴木しづ子」誕生

鈴木しづ子は、大正8年（一九一九）6月9日、東京に生まれました。昭和15年（一九四〇）、岡本工作機械製作所に入社したしづ子は、翌16年（一九四一）、社内に結成された俳句部に入部します。

この社内俳句部で、しづ子は俳句結社「樹海」を主宰する松村巨湫の指導を受けるようになります。巨湫との出会いは、しづ子の運命を大きく変えました。しづ子は巨湫を師と仰ぎ、巨湫はしづ子の才能を大きく開花させました。

昭和21年（一九四六）、しづ子は念願の処女句集『春雷』を刊行します。『春雷』は初版1500部、累計5000部を刷り、若い女性俳人の句集として話題となりました。ここに俳壇の新進スターが誕生し、しづ子は一躍時の人となりました。しづ子27歳。句作を始めてわずか6年目のことでした。

キャンプ岐阜の町・那加へ

しづ子は、女流俳人の新進スターとして俳壇にデビューを果たしまし

たが、このころ、彼女に大きな変化をもたらす出来事が続きます。この年、婚約者の戦死の報を受け、5月15日には最愛の母・綾子が他界。昭和23年（一九四八）には、父・俊雄が再婚し、同年、しづ子も職場結婚します。しかし、翌24年（一九四九）には、離婚。東京より、アララギ派の歌人であり岐阜市に住んでいた叔母を頼って来岐、稲葉郡那加町日之出町に住むようになります。

当時、しづ子は一日中作句に励んでいたといいます。そして作られた俳句は、師である松村巨湫のもとへ送られていました。巨湫はの中から何句かを選び、句誌『樹海』に掲載を続けていきます。この時のしづ子の様子を、当時の下宿屋の女主人は次のように語っています。

家の2階にシーちゃんと呼んだ娘さんがいました。戦死した恋人が恋しかったのか、家に不幸があったのか、家を飛び出していた娘でした。品のいい、ものの言い方のしとやかな育ちのいい娘でした。机の上に布をかけて、ペンをもって一日中座り続けていた。「おばさん、おネギ1本分けて。」「あんた、

盗掘を免れ、ほぼ当時そのまゝの状態
で副葬品が出土しました！



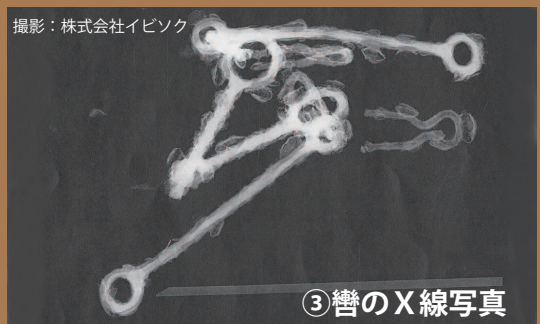
①出土した状態の轡

余分なサビを落し、劣化が進まないよう外部の業者に保存処理を依頼しました。



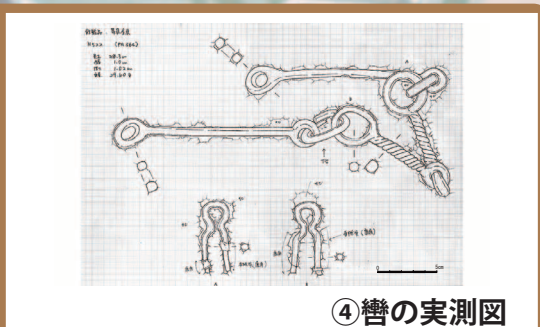
②保存処理後の轡

X線写真では、本来の部分は特に白く写っています。



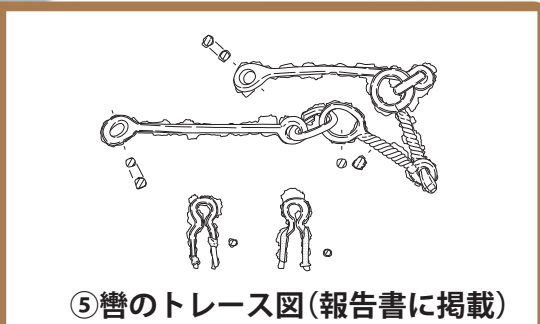
③轡のX線写真

轡本来の形を判別し、手書きで図化しました。ねじれや付着物も表現します。



④轡の実測図

でき上がった実測図はパソコンでデジタルトレースし、実測図版を作成します。



⑤轡のトレース図(報告書に掲載)

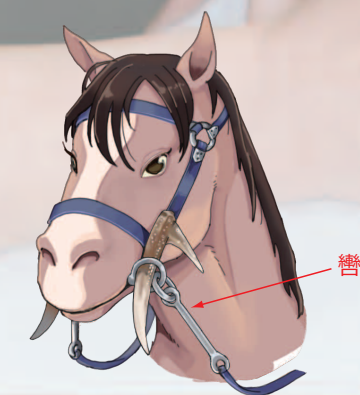


図2 轡の装着イメージ

この後は、現在発掘調査中の鵜沼古市場遺跡D地区などから出土した遺物の整理作業が控えています。これからも日々勉強し、身につけたスキルを最大限に発揮して作業を続けていきます。

また、整理作業室でのさまざまな仕事の中で、大変だったこと、新たに発見したことなどの裏話を今後も紹介していきたいと思っています。

(村瀬美香子)

さらなるスキル向上を目指します！



写真1 出土した状態のガラス玉・管玉

どの作業も専門的な技術が必要とし、非常に細かい作業の連続です。ところが整理作業室で働く私たちは、発掘関係の経験者はほぼ皆無。まったくの素人の状態でこの世界に飛び込みました。イベント会社社員、CADオペレーター、小中学校の相談員、クロマグロ研究補助員などなど、さまざまな経歴を持つ人たちがふとした縁からこの職場に集まりました。長い人では30年以上もかけてスキルアップに励み、作業に携わっています。

整理作業室の人々

埋文センターの整理作業室は、中央図書館3階、歴史ギャラリーの奥にあります。発掘調査で出土した遺構や遺物を図面や写真などに記録して報告書を作り、後世に残すという作業をしています。

今回は古墳から出土した遺物の実測を紹介いたします。ベテランでも経験が少ない鉄製品や、とても小さな装飾品(ガラス玉・うす玉などの実測に悪戦苦闘しました(図1)。鉄製品の実測では外部の研究者に何度も指導していただき、表面のサビに惑わされず、本来の形を推測して図化することを学びました。

一生懸命目を凝らしても形が分か

見極めよ！鉄製品の実測

らず、修正に修正を重ねます。多くの方の協力を得て作業を進めた結果、古墳が築造された当時の副葬品の姿を図に表すことができました(①⑤)。この副葬品は「轡」と呼ばれる馬具で、図2のように装着していたと考えられます。

未発掘の状態で検出された1号墳の墓壇内からは、全部で83点の鉄製品が出土しています。今後刊行される発掘調査報告書に掲載しますので、ご期待ください。

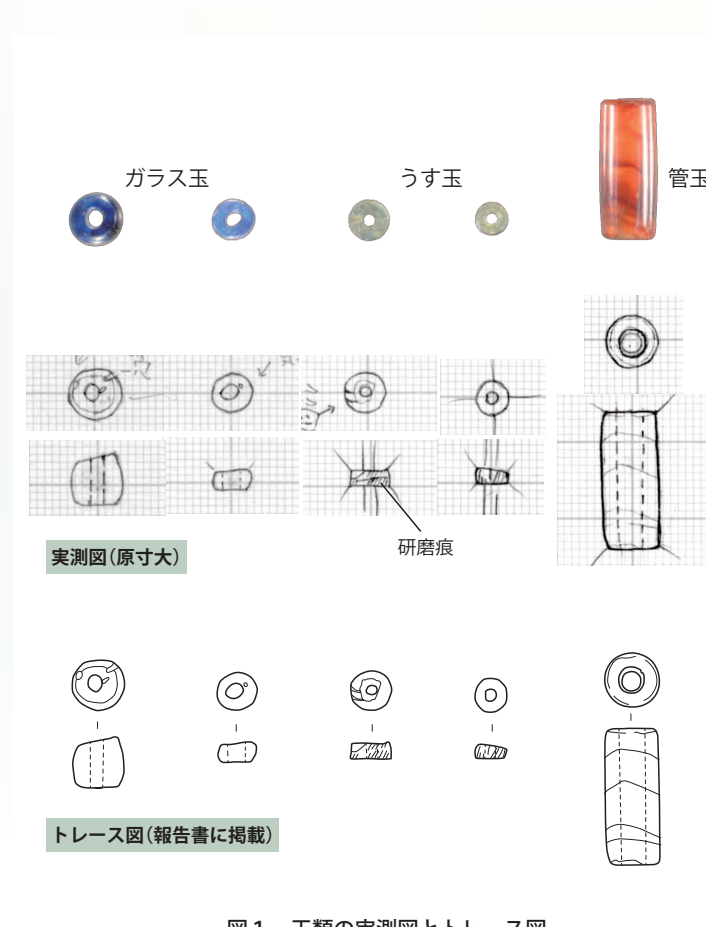


図1 玉類の実測図とトレース図

■学校関連事業

No.	日	学校名	場 所	人数
1	5月2日	各務原高等学校 2年生	各務原高等学校(出前授業)	32
2	5月16日	各務原高等学校 2年生	各務原高等学校(出前授業)	9
3	5月20日	川島小学校 4年生	木曽川文化史料館	70
4	5月24日	川島小学校 4年生	木曽川文化史料館	69
5	6月7日	那加中学校 1年生	中央図書館	25
6	6月13日	各務原高等学校 2年生	前渡不動山	7
7	6月17日	蘇原中学校 1年生	中山道鶴沼宿	35
8	6月17日	蘇原中学校 1年生	炉畑遺跡	103
9	6月24日	鶴沼第一小学校 6年生	坊の塚古墳、衣裳塚古墳、二ノ宮神社 狐塚の石棺、町屋館、脇本陣	98
10	9月22日	各務原高等学校 2年生	木曽川文化史料館	20
11	9月27日	稲羽東小学校 6年生	稲羽東小学校(出前授業)	15
12	9月28日	稲羽西小学校 3年生	稲羽西小学校(出前授業)	46
13	10月5日	美濃加茂市立山之上小学校 5年生	炉畑遺跡	25
14	10月20日	陵南小学校 6年生	坊の塚古墳、衣裳塚古墳	68
15	10月25日	鶴沼第一小学校 2年生	二ノ宮神社、脇本陣、町屋館	35
16	10月25日	陵南小学校 5年生	炉畑遺跡	68
17	10月26日	鶴沼第一小学校 2年生	二ノ宮神社、脇本陣、町屋館	35
18	10月27日	鶴沼第一小学校 2年生	二ノ宮神社、脇本陣、町屋館	35
19	10月27日	陵南小学校 6年生	坊の塚古墳、衣裳塚古墳	68
20	10月28日	蘇原第一小学校 6年生	蘇原第一小学校(出前授業)	156
21	11月8日	蘇原第一小学校 6年生	野口館、無染寺、加佐美神社	156
22	11月8日	川島小学校 4年生	木曽川文化史料館	67
23	11月9日	川島小学校 4年生	木曽川文化史料館	66
24	11月9日	中央小学校 3年生	村国座	70
25	11月11日	川島小学校 4年生	川島小学校(出前授業)	131
26	11月25日	八木山小学校 3年生	鶴沼宿	27
27	11月26日	鶴沼第一小学校 6年生	鶴沼第一小学校(出前授業)	98
28	12月1日	那加第三小学校 3年生	村国座	76
29	12月6日	各務小学校 6年生	船山古墳群・天狗谷遺跡	36
30	12月8日	中央小学校 3年生	中央小学校(出前授業)	64
31	12月8日	稲羽東小学校 6年生	稲羽東小学校(出前授業)	16
32	1月19日	御嵩町立御嵩小学校 5年生	炉畑遺跡	82
33	1月30日	各務原高等学校 2年生	各務原高等学校(出前授業)	30
34	1月31日	各務小学校 3年生	村国座	35
35	2月9日	那加第二小学校 3年生	那加第二小学校(出前授業)	76
36	2月14日	川島小学校 4年生	川島小学校(出前授業)	130
37	2月21日	稲羽東小学校 3年生	稲羽東小学校(出前授業)	16
38	3月1日	鶴沼第三小学校 3年生	鶴沼第三小学校(出前授業)	105
39	3月15日	鶴沼第二小学校 3年生	鶴沼第二小学校(出前授業)	110

■出前講座・職員講師派遣

No.	日	団体等	内 容	人数
1	4月5日	チョイソコかかみがはら	歴史ウォーキング(炉畑遺跡ほか)	4
2	4月22日	ふるさと楽会	壬申の乱前後の美濃国各年郡	25
3	4月23日	濃尾・各務原地名研究会	伊木清兵衛を探して	80
4	4月26日	川島ライフデザインセンター	前渡不動山	9
5	4月30日	歴史講座	前渡不動山	24
6	5月14日	川島ライフデザインセンター	神社から読み解く各務原の歴史	30
7	5月17日	中央ライフデザインセンター	各務原の地形	40
8	5月21日	各務原歴史研究会	各務原の地芝居と舞台	80
9	5月24日	ライフカレッジ鶴沼西	承久の乱～北条義時～	15
10	5月24日	中央ライフデザインセンター	川上貞奴と各務原	40
11	5月25日	ライフカレッジ那加	承久の乱～北条義時～	25
12	5月26日	ライフカレッジ鶴沼中	承久の乱～北条義時～	18
13	5月27日	ライフカレッジ鶴沼東	承久の乱～北条義時～	13
14	5月27日	ふるさと楽会	発掘調査で分かった鶴沼古市場遺跡	25
15	5月27日	ヒストリー各務野会	小島三郎	17
16	5月28日	まいまい東海事務局	前渡不動山	15
17	5月29日	各務野自然体験塾	各務原の地層を知ろう 一足元の石から分かること	20
18	5月31日	中央ライフデザインセンター	各務原の地歌舞伎	50
19	5月31日	ライフカレッジ那加	承久の乱～北条義時～	30
20	6月4日	清住町ふるさとカレッジ	承久の乱と各務原	30
21	6月4日	各務原市観光協会	前渡不動山の歴史	40
22	6月5日	岐阜を元気にする会	小島三郎	50
23	6月7日	中央ライフデザインセンター	戦国の各務原	50
24	6月7日	那加中学校	学芸員の仕事	9
25	6月19日	稲羽中学校区ふれこみ隊活動	三井山に登ろう	47
26	6月21日	中央ライフデザインセンター	貞照寺、前渡不動山 各務原の歴史 歴史埋文バックヤード見学	40
27	6月21日	市教育センター初任者研修	日本の歴史に「岐阜」が どのように関わったか	29
28	6月28日	岐阜リーダーズの会	東日本大震災を教訓として 各務原の地域の歴史を学ぼう	40
29	7月19日	東ライフデザインセンター	貴重な資料に触てみよう	39
30	7月21日	市教育センターキャリア教育講座	美濃各務の古墳勢力の萌芽と展開	6
31	8月4日	濃尾・各務原地名研究会	養虫山人 各務原を行く	80
32	8月20日	濃尾・各務原地名研究会	伊木清兵衛の生涯	16
33	8月26日	ヒストリー各務野会	承久の乱と各務原	40
34	9月16日	小牧歴史ガイドボランティア たぶの木会	VRで観る各務原市の考古遺物	15
35	9月20日	ボランティアハウス浜友会	炉畑遺跡	161
36	10月8～10日	大同大学共催事業	大枚1号墳	20
37	10月9日	岐阜大学教育学部美術教育講座	大枚1号墳	1
38	10月10日	個人	鶴沼古市場遺跡の発掘調査と 古代の村	30
39	10月16日	中央ライフデザインセンター	各務原市ゆかりの作家	40
40	10月22日	岐阜県文化財保護センター	歴史ウォーキング(村国座ほか)	7
41	10月23日	中央ライフデザインセンター	ふるさと川島の歴史	20
42	10月26日	チョイソコかかみがはら	壬申の乱と村国男依	20
43	10月28日	ふるさと楽会	壬申の乱と村国男依	100
44	10月28日	ヒストリー各務野会	室町時代の鶴沼の姿を探る	40
45	11月3日	平城宮跡歴史公園いざない館	村国座	6
46	11月6日	中央ライフデザインセンター	歴史ウォーキング(鶴沼宿ほか)	5
47	11月8日	御嵩町	尾張藩主の犬山城見学	15
48	11月11日	チョイソコかかみがはら	承久の乱と各務原の地形	65
49	11月15日	ライフカレッジ稲羽東	大枚1号墳	1
50	11月15日	川崎山薬師寺	尾張藩主の犬山城見学	23
51	11月17日	個人	勾玉作り	9
52	11月18日	ライフカレッジ稲羽西	木曽川と川島 ～大河の流れとともに生きて～	82
53	11月18日	学校教育課 あすなろ教室	名勝木曽川と観光・産業	40
54	11月19日	各務原歴史研究会	尾張藩主の犬山城見学	23
55	11月20日	中央ライフデザインセンター	承久の乱の大豆戸・ 関ヶ原前哨戦の新加納	48
56	11月25日	ライフカレッジ川島	前渡不動山に登ろう	6
57	11月27日	関ヶ原古戦場記念館	前渡不動山	6
58	12月3日	稲羽中学校区ふれこみ隊	村国座探検ツアー	11
59	12月3日	まいまい東海事務局	鶴沼古市場遺跡の見学	30
60	12月3日	まいまい東海事務局	名勝木曽川と観光・産業	15
61	12月4日	中央ライフデザインセンター	東島町の歴史	25
62	12月9日	ヒストリー各務野会	歴史ウォーキング(町屋館ほか)	10
63	12月11日	東島町シニアクラブ	前渡不動山、炉畑遺跡、野口館	29
64	12月14日	チョイソコかかみがはら	各務原の歴史と小島三郎	28
65	1月17日	市教育センター初任者研修	鶴沼発！くすり博物館のウイルス展	20
66	1月19日	各務原市女性会議	各務原市の地形	25
67	1月24日	東ライフデザインセンター	新加納の戦い ～知られざる関ヶ原前哨戦～	60
68	1月27日	ふるさと楽会	小島三郎	17
69	1月31日	岐阜県商工労働部観光国際局 観光資源活用課	木曽川文化史料館、前渡不動山	36
70	2月4日	川島ライフデザインセンター	各務原市の歴史	28
71	2月4日	各務原商工会議所青年部	古地図で学ぶ各務原	15
72	2月24日	市人事課 新規採用職員研修	第3回 三関科研(古墳)検討会	16
73	2月24日	ヒストリー各務野会		
74	2月26日	名古屋大学大学院人文研究科		

■企画展

「養虫山人 各務原を行く」
放浪の画人がこの地を訪れたのは、
会 期／7月30日(土)～8月28日(日)
会 場／中央図書館3階展示室A・B
来場者／1168人

「養虫山人と孝子」
講師／山口卓也(関西大学非常勤講師)
開催日／7月31日(日)
会 場／中央図書館4階多目的ホール
受講者／73人

「御膳初く徳川将軍も食した各務原の米」
会 期／10月8日(土)～11月13日(日)
会 場／中央図書館3階展示室A
来場者／717人

「関連講演会①」
「江戸時代の米とは？」
講 師／中尾喜代美(元岐阜大学職員)
開催日／10月8日(土)
会 場／中央図書館4階多目的ホール
受講者／41人

「関連講演会②」
「徳川将軍が食した御膳粉と美濃国」
講 師／望月良親(高知大学講師)
開催日／10月30日(日)
会 場／中央図書館4階多目的ホール
受講者／65人

「かかみがはらえきめ project」
「Kinora」
会 期／11月18日(金)～12月22日(木)
会 場／岐阜かかみがはら航空宇宙博物館
来場者／11068人

「関連事業」
ギャラリートーク
◇展示会場において、担当学芸員と作家による作品
解説を行った。
開催日／11月20日(日)
会 場／Kinora展示会場
参加者／25人

ワークショップ
「マイファースト掛け軸！ミニ掛け軸つくり」
◇絵柄に日本画の画材を使って展示作品と同じ仕様
のミニ掛け軸を作った。
開催日／12月11日(日)
会 場／空宙博オリエンテーションルーム
参加者／30人

■ヒストリーウィンドウ

会 場／市役所本庁舎1階展示コーナー
① 承久の乱と各務原
会 期／7月20日(月)～9月30日(金)
② 「村国座」の地芝居
会 期／10月3日(月)～12月27日(火)
③ 各務原の養蚕業
会 期／令和5年1月4日(水)～3月31日(金)

■アートウィンドウ

会 場／市役所本庁舎2階展示コーナー
① 不老長寿
会 期／4月12日(火)～7月1日(金)
② 坪内節太郎 文楽を描く
会 期／7月4日(月)～9月29日(金)
③ 養虫山人展によせて
会 期／8月1日(月)～25日(木)
④ 井上忠明の世界
会 期／8月26日(金)～10月27日(木)
⑤ 永遠と瞬間
会 期／10月31日(月)～12月27日(火)
⑥ えきめ 解剖！
会 期／令和5年1月4日(水)～2月3日(金)
⑦ 宇城翔子・季節のうつろひ
会 期／2月6日(月)～3月31日(金)

■巡回展

「写真で振り返るかかみがはら②」
会 期／9月3日(土)～令和5年1月29日(日)
会 場／川島ライフデザインセンターほか

「かかみがはら歴史の時間」
「市民が語る米軍資料からみた各務原」
◇自ら調査研究を続けてきた市民が、各務原空襲の
姿を公開された米軍資料から明らかにした。
開催日／6月19日(日)
会 場／産業文化センター会議室
受講者／50人

「承久の乱PRイベント」来たれ！承久の乱
「承久の乱と京方武士」
◇後鳥羽上皇に従った武士たち
◇各務原はなぜ承久の乱の合戦地となったのか。最
新の研究結果を含めて解き明かした。
講 師／生駒孝臣(花園大学准教授)
開催日／8月21日(日)
会 場／産業文化センターあすかホール
参加者／195人

「イオンモール各務原共催イベント」
「いざ、各務原へ承久の乱」パネル展
◇大河ドラマ「鎌倉殿の13人」放送に合わせ、承久の
乱に関するパネル展示を行った。
期 間／10月21日(金)～11月13日(日)
会 場／イオンモール各務原1階

講演会 承久の乱の13人

◇フリーライターの樽瀬川真人氏を招き、承久の乱
と乱に関わる13人の人物について講演を行った。
開催日／10月25日(火)
会 場／イオンシネマ各務原
参加者／117人

ワークショップ「頼朝も遊んだ？盤双六」

◇大河ドラマにも登場した、中世の遊び「盤双六」を
体験するワークショップを行った。
開催日／10月30日(日)
会 場／イオンモール各務原1階
参加者／25人

■鶴沼古市場遺跡の地区説明会

◇第3次発掘調査を実施。竪穴住居跡・方形土坑な
どの遺構と出土遺物を公開した。
開催日／11月26日(土)
参加者／57人

「オオサンショウウオ調査隊」

◇岐阜高校・大垣北高校などの協力のもと、特別天
然記念物オオサンショウウオに触れて生態や保護
活動などについて学ぶ講座を開催した。
開催日／11月6日(日)
受講者／16人

■各務原市史編纂委員会

◇昭和と平成編の市史を刊行するため編纂委員会
を設置し、市史及び同普及版の概要等について審議
した。
開催日／7月14日(木・令和5年3月9日(木)
会 場／産業文化センター会議室

■講座事業

◇「古文書講座(初級)」
◇「鶴沼宿本陣松井家文書」など郷土に残る資料を使
い、古文書読解の基礎を学習した。
開催日／6月5日(土)～令和5年1月1日(土)全8回
会 場／那加福祉センター学習室
受講者／15人

「埋蔵文化財調査センターレギュラー講座」

① 勾玉づくり／6回・8人
② ハックヤード見学／1回・1人
※令和5年2月末現在

■来館者数

○歴史ギャラリー(中央図書館3階) 5178人
○木曽川文化史料館(川島会館4階) 1619人

○古文書ボランティア記録作成事業
◇近年寄贈された「安橋家文書」「永田家文書」につ
いて、市民ボランティアを募って読解・整理し、目
録化した。(全20回)
会 場／那加福祉センター学習室
参加者／15人



八木山小学校 / 鶴沼宿見学



蘇原中学校 / 炉畑遺跡見学



鶴沼第一小学校 / 出前授業



VRで観る各務原市の考古遺物



稲羽東小学校 / 出前授業